

---

# 雨の死神

鶲鳴

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

雨の死神

### 【Zマーク】

Z2926Z

### 【作者名】

翳鴉

### 【あらすじ】

雨の日に一人立っている少女。そんな所に幼い少年が傘を渡してくれた。  
そして10年後…。

## プロローグ

ある雨の日

。

「…誰も、僕の事を信じてくれない。」

雨の日

。

「…世界が無くなれば良い。」

雨の日

。

「…人間など…所詮…。」

少女は一人、雨の中を歩いていた。

「ちょっと、お姉ちゃん。」

「…？」

「…？」

幼い少年は少女に話しかけてきて、傘を渡した。

「お姉ちゃん、風邪引く。」

「…なぜ…？」

「だって、母ちゃんも父ちゃんも人には優しくしないで？」

「！？…。そうか。」

「じゃあね。」

幼い少年は雨の中を走つて行った。

そして、少女はどこかに消えていつてしまった。

「…雨が好きな人間はいるのだろうか…。」

## 1句 口音変化

「要ー やつやと起あるー。」

ガラツー ガラツー！

女の人が部屋のカーテンを開ける。

「ん？ ……。」

ベッドには、少年が寝ていた。

「要ー やつやと起きなさい！」

「… 今何時？」

「7時45分よ。」

「… ふわあ～…。」

少年は用意を始める。

「朝だ」はんできてるから。」

「ん。分かった。」

少年はあいまいな返事をする。

少年の名前は『時雨』しぐれかなめ 中学2年生。

4

煙の中学校は学ランではなく、高校生などが着る制服でいいらしい。

「はい、要。お弁当ー。」

「ありがとな、ねえちやん。じゃあ行つてくる。」

煙は口にパンをくわえて家を出た。

煙はとても、マイペース。  
「……。」

「うわあーんー。」

子供が道中で泣いていた。  
「ん？ ……どうした？」

「お母さんがいなくなつたの。」

「さうか、じゃあお兄ちゃんが一緒に探してやるよ」二ノ口シ

「ありがとう!」

そして、要は子供の母親を見つけて、学校に向かう。

時刻08：10

。

「…ん？あつ♪ミ。」

要は道に落ちてる♪ミを公園の♪ミ箱にまで入れる。

「はあ～…今日も平和な日常だなあ～」

要はとても親切?というか、そう言ひつ“正義感”がある。

「あつ…遅刻するな。」

要はパンを全て食べる。

そして、いつものように登校する。

「ふわあ～…眠い。」

「おつす！時雨！」

「ん？…澤倉？なんだ？」

「相変わらずだな。お前は。」

「？？」

「いいから、わざと行かないと遅刻するぞーー！」

「知ってる。」

要は成績優秀、女子にも男子にもそこそこ人気者。先生にも頼られる事が多いが。

あまりのマイペースに結構ウザがられる事もある。

ガラツ

教室に入り、席に着く。

要の席は窓際の一番後ろの席。

「時雨君ーここ、教えてほしいの。いいかな?」

「ん?…別にいいけど。」

要は誰にでも親切で優しい。

タツ…。

「…雨が降つてない日は嫌いだ…。」

電信柱の上に立つ少女、小さな傘を広げていた。

「雨…。」

「雨がどうかしたの? 時雨君?」

「いや…。」

要は窓から外を見る。

ガラッ

「……要…!…!」

「ん?」

バコンッ…!

「!…?…。」

「時雨君大丈夫?」

いきなり要が少女に殴られる。

「痛ッ…。」

「あんたねー告白されてもっと言い方とか無いわけーー!」

「…吳羽?…。」

「聞け!!人の話!」

少女の名前は『 笠野吳羽』 要の幼馴染。

「何?…。」

「昨日、告白されたんでしょう。なら、断る言ひ方を考えろ……。」

「あ～…悪かったよ。」

「…?…私に謝られても困るし…。」

要は素直に謝る。黒羽は頬を赤くして田をそらして言ひ。

「俺に告白しても、意味無いのに。」

「えつ?どうしてよ?」

「俺、幼い頃からずっとと思つてる人がいるしな。」

「…?…。」

「えつ…………!」

クラス中、全員が驚いていた。

「??。」

「…時雨要…。」ボソッ

少女は、傘の持つところに書いてある名前を読んだ。

## 2句 始まりの出会い

「…匂づ。」

少女は突然電信柱から消えた。

ドクンッ！

「！？…。」

「時雨君？」

「あついや…なんでもない。」

要は少し顔色が悪かつた。

なんだ？今の違和感…。

そして、空は曇り。

やがて、雨になつた。

「雨だ、天気予報と違つ。」

「…雨…。」

ドクンッ！

「！？…。」

『…人間とは、珍しい物だ…。』

』

「…お前は誰だ！」

「…えつ？時雨君？」

「…？」

「あつ...」のん。

要はそつと教室から出ていった。

「見つけた。」

「えつ！？」

要が廊下に出る、そしたら窓から化け物が要を襲う。

スツ  
！

「なつ！？」

「西行」

化け物は消える。

タツ

平氣力

「あまつ、浮か

「喰われる?」

…呆れるまあいし

「お前は？誰だ？」

「雨神。」

「……なんで俺雨降つてるので、ぬれてないんだ?」

「神？」

「見つけた。

卷之二

雨神は要を抱えて、  
飛ぶ。

「なんだアレ！」

「あれは、  
死魔<sup>カク</sup>」  
能力を持つてゐる人間を喰う。

「何！？」  
「だけど俺には能力なんて……。」

「……ある。かつて私がお前に受けた能力。

「はあ？」

タツ

北山に春北に

一  
雨、突き刺され、

雨袴たぬきを付け物は向むかひ

そして、化け物に突き刺さる。

化け物から、血が大量に出てくる。

「逃げるぞ。」

「あつ！…。」

人間は本当に哀れた

『お姉ちゃん、濡れちゃつよ。』

なぜだ…なぜ、歳を取つていない。

「…再生を始めたか。」

「えつ？」

化け物の傷は全て再生する。

「 やハ やハ、 田を覗めや! 。

「？」と、俺は尋ねた。

「我故鄉」回憶錄

我に花  
雨衣衣て  
の空  
私の方枕

雨方仕上物は附に注ぐ

「ブフアアアアアアアア！」

「うなぎのせんべい」は珍しい

「えっ？ 神だふひあんたー！」

「私は、お前こ力をあたえ、

卷之三

וְבַיִת־בָּשָׂר וְבָדָד־בָּשָׂר

ドウシッ！

10

要の様子がおかしかつた。

『……人間、力がほしいと思わないか？』  
『ほしいよ、誰かを守れるようなそんな力が。』  
『……なら私がやろう。また10年後その力は發揮される。』  
『お姉ちゃんと出会つか分からぬいよ？』

「！？… 雨神とであつたあの日…俺は死神になつた！」

## 3句 死神から貰つた力

「…その力は何でも出せる力。」

「何でも？」

「…要が望めば何でも出る。」

分かつた。

要は集中する。

俺が望む……俺は、死魔を倒す力がほしい。

「… そうか、なら私がやろう。その力を。  
「はあ？」。

E 8

100

雨神が要にキスをする。

デクンシード

二三

要の手から剣が出てきた。

「なつ！：剣？」

「要にはよく似合っているな。」

「そ、うか？まあ、良い！」

死魔が叫ぶ。

「お前の力を發揮しろ。」

「分かつてる！！

要は剣を強く握る。

「うわああああああああ……！」

「ジャキッ！……！」

「グワアアアアアアアアアア……！」

死魔は真つ二つになつて、血を流して倒れて消えた。

「……やつたのか？」

「……ああ、よくや……。」

ガクッ！

「雨神！」

雨神が突然しゃがみこむ。

「……大丈夫だ、ただ力を使いすぎただけだ……。」

「そうか？なら、いいけど。」

雨神は立ち上がる。

「……それで、要は家に帰るのか？」

「あつおう、雨神は？」

「……私に家など無いが……今は雨が降つている傘。」

「あつ……これ、昔俺が……。」

要が傘を見て言つ。

「捨てないで居てくれたんだな！ありがとう……。」ニコッ

「……別に、気に入つただけで……。」

「まあ、だけど、ありがとう！」ニコッ

「……いいから、さっさと帰れ。私は要の見張りをしてくる。」

「はいはい！じゃあな！雨神！」ニコッ

「……。」

そして、傘が無くなつた途端に、雨神に雨が掛かつた。

要を見ると、まったく濡れていなかつた。

「……傘が無いと、自分自身じゃいられない……。」

雨神の体が少し震えているように見える。  
そして、いつしか雨神は消えていた。

「……。」

あの時も、何も無い私に、あの子供が話しかけた。

こんな化け物みたいな私に、傘を渡してくれた。

嬉しかった。

こんな人間もいるんだなって思えて……。

「要…。」

雨神はビショ濡れになりながら、一人で歩いていた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2926z/>

---

雨の死神

2011年12月13日19時58分発行